

そのけものけお化けが通る

# 『もののけ番外地』は、心のどこかで生きています 思い出の「もののけ」たちが大暴れするお化けタウンだ

にぎやかな「福袋七丁目商店街」から少し離れた郊外にある静かな町「袋小路十三丁目」。だが、おたやかな見かけとはうらはらに、ここは「もののけ」たちが支配する恐怖の町。あらゆる建物、動物、植物まで、数々の仕掛けで訪れるものを脅かす「もののけ番外地」なのだ。おつかひつくり足を踏み入れたら、もう引き返すことはできない。さあ、覚悟を決めて、この町の隅々まで探険しよう！



人喰い化け猫  
(シールプリント機)

まずは、ここにしかない化け猫デザインの背景のシールプリントを作っちゃおう。デートの記念にもなるし、これがあると、中でもいろいろ楽しめるぞ。(300円)

## 猫目門

ねこめもん

大迫力の「目」がニラミをきかせる巨大な門。門番の「ろくろ猫」をしたがえて迫力も満点だ。いったんここをくぐったら、この先はもののけたちのトリックなワナが待ち受けるばかり。健闘を祈る！



## 袋小路十三丁目の由来

かつては落ち着いた住宅地だった袋小路十三丁目だが、ある日を境に、ナンダーバード軍から追い払われたゴーストたちが変化して「もののけ」が、町の奥にある三途の崖に、すみかを求めて集まるようになってしまった。

猫神旅館にいた霊力を持つ子猫「たま」は、危険を察知してもののけたちに戦いを挑んだが、子猫のパワーではかなうはずもない。たちまち返り討ちにあってしまう。逆にものけにトリックされて大妖怪「ぬまたま」にされてしまう。これが「たま」の死後四十九日目のことだったため「たま」には人間に好意的な「ものけたま」と、人間を憎む「ぬまたま」のふたつの魂が宿ることになる。

このことを知った福猫神たちは、結界を張りめぐらせてものけたちを町に閉じこめ、袋小路十三丁目は「もののけ番外地」と呼ばれるようになった。しかし、人間たちは、ものけたちが催す「もののけ復活祭」で「〇八匹のものけの顔を拝み「河童の鐘つき堂」で鐘をつく」と無病息災がかなうという「丑の刻参り伝説」にひかれて、今日もこの「もののけ番外地」に足を踏み入れていく。

中に入った瞬間、ただならぬ気配がするのだ。目の前に広がる暗がりから聞こえるザワザワした気配と吹き荒れる風。数メートルも歩けば、すでに気分は別世界になっている。いきなり人喰い化け猫をモチーフにしたシールプリント機はあるし、横を見ると「ろくろ猫」が霧を吹きかけてくる。そして、ふと見上げればそこには怪しく光る巨大な猫目が……。とまあ、出だしからインジョン高いんだけど、おかげで「瞬のうちにパーチャルな世界へと突入してしまっただ。

高鳴る胸を押さえて「もののけ参道」を進む頭上からは「ものけ」そのけの歌が流れ、怖いけれどなんだか楽しい「もののけ番外地」の雰囲気がかかってきたところで「丑三つ寺。いよいよ、ここから先が本番だ！

## お化けが歌い踊るへんなお寺で、「ザッツもののけテイメント」

### 丑三つ寺

まずはこちらで参拝をと思ったら、もののけたちのミュージカルショーが始まった。怖いばかりがものけじゃない。彼らの愛らしさをたっぷりご鑑賞あれ！



ボクボクボクと木魚を叩くと、リズムに合わせて「もののけ退散」の音がする。これからの長い道程へのお払いを兼ねて、キミもボクボクしておこう。



一見したところは何の変哲もない掛け軸が3本。だけど、通り過ぎようとするときいきなり3つのシルエットが浮かび上がり、フェスタリアンをドギマギさせる。よくよく見れば、これは三角関係に苦しむものけたちの地獄絵図。刺激せず、そっと覗いて先へ進むべし。



おみくじがあれば引いてみたくするのが人情。まして場所が「もののけ番外地」ならなおさらだ。しかし、おとなしく大吉を引いてバンザイ、なんてことはここじゃ許されない。おみくじを引いて「あれ、とくに何も起きないな」と安心したつぎの瞬間、思わぬショックが……。